

好学尚武

20名

埼玉県の場合、公式戦でベンチ入りできる選手は20名です。ただ、私の経験上（勝ち試合では特に）1試合でそれだけの選手を起用することはまずありません。ではこの20名という数字にはどんな意味が隠されているのでしょうか？

勝つために必要なのは技術面だけではない・・・

競技は違いますが、長いことサッカー日本代表で活躍している長友選手、森保監督は彼を日本代表に招集し続けています。彼がチームにもたらすプラス面、これが大きいのではないのでしょうか。監督がチームにもたらして欲しい雰囲気づくりをベテラン選手が感じ取って実践している・・・私にはそんな風に見えます。

また世の中、存在しているだけで雰囲気を和ませるようなタイプの選手がいるものです。過去、私が率いたチーム（市高ではありません）に120キロを超える大柄な選手がいました（クマのぷーさんみたいな感じ）。守備につくことはありませんでしたので、彼の試合出場は代打の1打席か伝令だけでした。でも私は彼の代打・伝令での起用を大切にしていました。スタンド全体の雰囲気を変えられたからです。愛嬌がある・・・そんなことも社会に出たら武器になる。そんな風に話したことを覚えています。

さて・・・夏が近づいています。

夏の勝敗は「総合力」でつきます。

「総合力」とは、「見えない」「数字には現れない」ものも多く含まれます。

そんな「力」を持った選手の出現を待ちたいと思います。

母の日

母の日（山梨遠征の帰り）近所のヤオコーに寄り、花束を2つ購入、妻と妻の母に渡しました。私の実母は亡くなっていますので・・・

母から受けた愛情、亡くなってから気付くのは遅いんですが、定期的にそんなことを思い出します。

そもそも、母ちゃんがいなかったら今の自分は存在していません。考えれば考えるほど、私にとって偉大な存在です。

母は私が長男だったこともあってか、近すぎず遠すぎずという距離関係を築いてくれた人でした。それがとても有り難かったので、今、母親と父親、立場は違いますが、私も娘2人と同じように接するよう心がけています。

一番覚えていること・・・

私には9歳離れた弟がいるんですが、その弟を宿った時（と思われる）、真顔で妹・弟が欲しいかを聞かれたことです。ここまで息子2人、離れた3人目でどうしても女の子が欲しかったようです。（いても良いね！そんな風に答えたような・・・）結果は3人目も・・・でしたが、歳の離れた三男は男女関係なく可愛かったようです。たっぷりの愛情を注いでいました。

連日、家族という範囲内での悲しい事件が報道されています。「なぜ？」と思いますし、教員という立場からすると、私達の「教育」が間違っているのか？そんな風に考えたりもします。

定期的に家族の大切さを書かせていただいています。（私のように）失ってからその大切さに気付くことがないようにして欲しいと思います。

今、母ちゃんと話がしたいです。